

高島管内での新規需要米生産の推進

高島農業農村振興事務所農産普及課

【普及活動のねらい・対象】

管内の酪農や肉用牛経営は、規模拡大に伴う飼料自給率の低下に加え、飼料価格の変動に大きく影響される経営体質が問題となっています。一方、耕種農家においては、生産調整面積の増加に伴い、水田の遊休地や耕作放棄地が増加の傾向にあります。

このような現状をうけ排水が悪く、麦・大豆の生産が十分に出来ないほ場でも生産が可能な飼料イネ・飼料米は、高島地域にあった作物で今後、生産の拡大が期待されています。

【普及活動の成果】

1．生産面積の拡大

今年度、戸別所得補償モデル対策が実施されるにあたり、昨年2～3月にかけて開催された冬期現地農談会で、市・農協と共に制度の説明や不作付地解消に向けた新規需要米等の推進を行いました。また、関係機関で水田フル活用プロジェクトチームを立ち上げ、情報の提供、推進方策の検討、先進地事例情報の収集等を行いました。

特に、耕種農家と畜産農家の連携の重要性が理解されたことにより、平成22年度は各新規需要米面積が拡大されました。

2．飼料イネの省力機械化体系の実証

実証ほでは、播種作業に湛水直播技術を導入したところ、苗立ちが良好であり実収2,563kg/10a(生草重)と目標収量2,100kg/10a(生草重)に到達できました。

3．ホールクroppサイレージの高品質化に向けた作業の実施

昨年度の反省から、ロールベール中での乳酸菌の添加やラッピング作業は畜産農家の庭先で実施し、ピンホールの発生を防ぐなど高品質化に努めました。その結果、今年度のサイレージ品質は良く(Vスコア91.5)、畜産農家からも好評でした。

4．「近江しゃも」への飼料米給与の実証

自家配合飼料の重量比20%を飼料米で代替した飼料を「近江しゃも」に給与したところ、配合飼料のみで飼育したものと比較して遜色のない育成結果(事故率等)となりました。

5．今後に向けて

来年度、新規需要米面積の拡大を図るため、より一層耕種農家と畜産農家の連携の推進が図られるよう、水田フル活用プロジェクトチームの活動を支援する計画です。



	H21	H22	H22/H21
飼料用稲	17.6	27.2	1.5
飼料用米	2.1	6.3	3
米粉用米	1.8	14.3	7.9

単位：ha